

平成26年度決算及び平成27年度決算見込みについて

1 平成26年度決算について

■医師2名減員の影響により、入院・外来ともに見込んだ収入を確保することが出来ず、損益収支の赤字が見込まれたため、3階西病棟の一般病床を療養病床（H27.1月～）に転換し22百万円の収益を確保するとともに、一般会計繰入金100百万円を増額した結果、当期純利益は120百万円（前年比+15百万円）の黒字となった。

資金不足額についても大幅な増加が見込まれたが、リースバックにより90百万円を資金調達したことにより、経営改革プランのH26年度目標額8百万円には届かなかったものの、15百万円（前年比△15百万円）まで削減することができた。

主な項目(平成26年度決算)

○収益的収入	入院収入	525百万円	(前年比)	△196百万円
	外来収入	425百万円	(前年比)	△25百万円
	一般会計繰入金	606百万円	(前年比)	+69百万円
○収益的支出	職員給与費	762百万円	(前年比)	△43百万円
	材料費	143百万円	(前年比)	△21百万円
	経費	400百万円	(前年比)	△89百万円
○資本的収入	一般会計繰入金	129百万円	(前年比)	△6百万円
	リースバック	90百万円	(前年比)	+90百万円
○資本的支出	建設改良費	73百万円	(前年比)	+62百万円
	企業債	328百万円	(前年比)	+5百万円

2 平成27年度決算見込みについて

■平成27年10月末時点での入院患者は13,517人（前年比+3,480人）、入院収入は411百万円（前年比+112百万円）となっている。また、外来患者は31,934人（前年比△3,145人）、外来収益は256百万円（前年比+5百万円）となるなど、医師2名増員により大幅な増収が見込まれ、経営状況は改善に向かっている。

その一方、更なる収入確保のため、今年度予定していた2階病棟の稼働が、看護師不足等の影響により遅れており、経営健全化については依然として厳しい状況である。

主な項目（平成27年度決算見込）

○収益的収入	入院収入	701百万円	(前年比)	+176百万円
	外来収入	442百万円	(前年比)	+17百万円
	一般会計繰入金	495百万円	(前年比)	△111百万円
○収益的支出	職員給与費	815百万円	(前年比)	+53百万円
	材料費	178百万円	(前年比)	+35百万円
	経費	387百万円	(前年比)	△13百万円
○資本的収入	一般会計繰入金	132百万円	(前年比)	+3百万円
	企業債	43百万円	(前年比)	+43百万円
○資本的支出	建設改良費	113百万円	(前年比)	+40百万円
	企業債	328百万円	(前年比)	+5百万円

平成26年度決算及び平成27年度決算見込
「三戸中央病院経営改革プラン収支計画等比較表」

1. 収支計画（収益的収支）

（単位：百万円、％）

区分		年度	20年度 実績	21年度 実績	22年度 実績	23年度 実績	24年度 実績	25年度 実績	26年度 計画	26年度 実績	26年度 比較	27年度 計画	27年度 見込	27年度 比較
収 入	1. 医 業 収 益 a		1,527	1,613	1,622	1,581	1,487	1,460	1,687	1,056	△ 631	1,689	1,237	△ 452
	(1) 料 金 収 入		1,355	1,350	1,344	1,306	1,200	1,171	1,413	950	△ 463	1,415	1,143	△ 272
	(2) そ の 他		172	263	278	275	287	289	274	106	△ 168	274	94	△ 180
	うち他会計負担金		128	218	236	219	241	237	237	56	△ 181	237	57	△ 180
	2. 医 業 外 収 益		123	127	148	191	179	142	133	266	133	128	248	120
	(1) 他会計負担金・補助金		74	70	130	169	161	121	110	166	56	105	142	37
	(2) 国（県）補助金		5	4	4	4	4	4	4	4	0	4	4	0
	(3) そ の 他		18	14	14	18	14	17	19	96	77	19	91	72
	経 常 収 益 (A)		1,650	1,740	1,770	1,772	1,666	1,602	1,820	1,322	△ 498	1,817	1,485	△ 332
	支 出	1. 医 業 費 用 b		1,627	1,598	1,602	1,617	1,577	1,563	1,665	1,475	△ 190	1,669	1,543
(1) 職 員 給 与 費 c			831	807	800	839	820	805	853	762	△ 91	858	815	△ 43
(2) 材 料 費			242	234	218	196	171	164	258	143	△ 115	257	178	△ 79
(3) 経 費			467	463	488	485	487	489	478	400	△ 78	478	387	△ 91
(4) 減 価 償 却 費			84	83	78	84	87	86	76	152	76	76	139	63
(5) そ の 他			3	11	18	13	12	19	0	18	18	0	24	24
2. 医 業 外 費 用			149	136	132	127	118	113	122	119	△ 3	115	122	7
(1) 支 払 利 息			108	96	91	85	80	75	76	72	△ 4	70	69	△ 1
(2) そ の 他			41	40	41	2	38	38	46	47	1	45	52	7
経 常 費 用 (B)			1,776	1,734	1,734	1,744	1,695	1,676	1,787	1,594	△ 193	1,784	1,665	△ 119
経 常 損 益 (A)-(B) (C)		△ 126	6	36	28	△ 29	△ 74	33	△ 272	△ 305	33	△ 272	△ 305	
特 別 損 益	1. 特 別 利 益 (D)		0	79	69	78	171	179	145	874	729	147	297	150
	2. 特 別 損 失 (E)		1	1	5	5	1	0	1	482	481	1	△ 4	△ 5
	特 別 損 益 (D)-(E) (F)		△ 1	78	64	73	170	179	144	392	248	146	301	155
純 損 益 (C)+(F)		△ 127	84	100	101	141	105	177	120	△ 57	179	29	△ 150	
累 積 欠 損 金 (G)		△ 2,449	△ 2,365	△ 2,265	△ 2,164	△ 2,023	△ 1,918	△ 1,685	△ 1,798	△ 113	△ 1,506	△ 1,798	△ 292	
不 良 債 務	流 動 資 産 (ア)		379	385	376	369	364	338	425	460	35	441	325	△ 116
	流 動 負 債 (イ)		466	483	468	456	404	368	433	919	486	400	724	324
	うち一時借入金		390	390	380	380	336	300	354	400	46	320	350	30
	翌年度繰越財源(ウ)		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	当年度同意等債で未借入 又は未発行の額 (エ)		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	不 良 債 務 (オ)		87	98	92	87	40	30	8	459	△ 451	△ 41	399	△ 440
	差引 [(イ)-(エ)] - [(ア)-(ウ)]		87	98	92	87	40	30	8	459	△ 451	△ 41	399	△ 440
資 金 不 足 額		87	98	92	87	40	30	8	15	△ 7	△ 49	82	△ 131	
単 年 度 資 金 不 足 額 (※)		87	11	△ 6	△ 5	△ 47	△ 10	△ 27	△ 429	402	△ 49	67	△ 116	
経 常 収 支 比 率 $\frac{(A)}{(B)} \times 100$		92.9	100.3	102.1	101.6	98.3	95.6	101.8	82.9	18.9	101.8	89.2	12.7	
不 良 債 務 比 率 $\frac{(オ)}{a} \times 100$		5.7	6.1	5.7	5.5	2.7	2.1	0.5	43.5	△ 43.0	△ 2.4	32.3	△ 34.7	
医 業 収 支 比 率 $\frac{a}{b} \times 100$		93.9	100.9	101.2	97.8	94.3	93.4	101.3	71.6	29.7	101.2	80.2	21.0	
職 員 給 与 費 対 医 業 収 益 比 率 $\frac{(c)}{(a)} \times 100$		54.4	50.1	49.3	53.1	55.1	55.1	50.6	72.2	△ 21.6	50.8	65.9	△ 15.1	
地方財政法施行令第19条第1項 により算定した資金の不足額 (H)		1074	947	802	657	469	317	155	159	△ 4	△ 41	159	△ 200	
地方財政上の資金不足の割合 $\frac{(H)}{a} \times 100$		70.3	58.7	49.4	41.6	31.5	21.7	9.2	15.1	△ 5.9	△ 2.4	12.9	△ 15.3	
地方公共団体の財政の健全化に関する法律 上の資金不足比率		2.6	1.9	0.1	△ 1.6	△ 2.4	△ 4.0	△ 15.6	△ 7.2	△ 8.4	△ 20.7	△ 0.3	△ 20.4	
病 床 利 用 率		59.3	56.3	57.0	53.6	49.5	50.0	61.5	33.3	28.2	61.5	46.0	15.5	

2. 収支計画(資本的収支)

(単位:百万円、%)

区分	年度	20年度実績	21年度実績	22年度実績	23年度実績	24年度実績	25年度実績	26年度計画	26年度実績	26年度比較	27年度計画	27年度見込	27年度比較	
収入	1. 企業債	987										43		
	2. 他会計出資金													
	3. 他会計負担金	110	156	123	126	117	123	120	129	9	122	132	10	
	4. 他会計借入金													
	5. 他会計補助金													
	6. 国(県)補助金	2												
	7. その他								90	90				0
	収入計 (a)	1,099	156	123	126	117	123	120	219	99	122	175	53	
	うち翌年度へ繰り越される支出の財源充当額 (b)													
	前年度許可債で当年度借入分 (c)													
純計(a)-(b)+(c) (A)	1,099	156	123	126	117	123	120	219	99	122	175	53		
支出	1. 建設改良費	5	53	18	17	3	11		73	73	5	113	108	
	2. 企業債償還金	164	305	309	314	318	323	330	328	△2	335	332	△3	
	3. 他会計長期借入金返還金													
	4. その他								1	1			0	
	支出計 (B)	169	358	327	331	321	334	330	402	72	340	445	105	
差引不足額(B)-(A) (C)	△930	202	204	205	204	211	210	183	△27	218	270	52		
補てん財源	1. 損益勘定留保資金	0	202	204	205	204	211	210	183	△27	218	270	52	
	2. 利益剰余金処分量													
	3. 繰越工事資金													
	4. その他													
計 (D)	0	202	204	205	204	211	210	183	△27	218	270	52		
補てん財源不足額(C)-(D) (E)	△930	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
当年度同意等債で未借入又は未発行の額 (F)														
実質財源不足額(E)-(F)	△930	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		

3. 一般会計等からの繰入金の見通し

(単位:千円)

	20年度実績	21年度実績	22年度実績	23年度実績	24年度実績	25年度実績	26年度計画	26年度実績	26年度比較	27年度計画	27年度見込	27年度比較
収益的収支	(0)	(7,923)	(0)	(0)	(29,997)	(37,000)	(164,885)	(278,425)	(113,540)	(166,718)	(141,701)	(△25,017)
資本的収支	227,798	406,314	435,751	465,360	572,687	537,297	491,912	606,036	114,124	489,134	495,030	5,896
	(1,520)	(26,416)	(4,345)	(5,000)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
	110,192	156,263	123,811	126,211	116,581	122,869	119,934	129,189	9,255	122,359	132,358	9,999
合計	(0)	(34,339)	(4,345)	(5,000)	(29,997)	(37,000)	(164,885)	(278,425)	(113,540)	(166,718)	(278,425)	(111,707)
	337,990	562,577	559,562	591,571	689,268	660,166	611,846	735,225	123,379	611,493	627,388	15,895

(注)

- ()内はうち基準外繰入金額を記入すること。
- 「基準外繰入金」とは、「地方公営企業繰入金について」(総務省自治財政局長通知)に基づき他会計から公営企業会計へ繰り入れられる繰入金以外の繰入金をいうものであること。

3 -

意見・提言等

委員) 平成 26 年度決算及び平成 27 年度決算見込「三戸中央病院経営改革プラン収支計画比較表」では、収入実績等が徐々に減少してきているが、平成 26 年度経常収益は 18 億円の計画に対して実績は 13 億円となっている。実績に基づき計画を立てていると思うが、平成 27 年度も経常収益は 18 億円の計画に対して 14 億円の見込みになっている。

計画と実績が 2 割も差があるのはがおかしいのではないかと。

事務局) 収支計画については、平成 20 年度の三戸中央病院経営改革プラン策定時の数字になっている。収支計画は特例債の返還が終わる平成 27 年度までとなっており、そこまでは改革プランの収支計画との比較をすることになっている。

委員) 当初の計画を見直さず、それに向かって改革をしていくということか。

事務局) 計画と実績等を県へ報告している。医師の減等が続き計画の達成が困難になってきているが、平成 27 年度特例債の返還年度まではこの数字を変更せずに進めてきたということである。

委員) 療養病床にして色々と改善されているということだが、療養病床の内容、目標値、患者数、今抱えている課題等あったら教えていただきたい。

事務局) 平成 27 年 1 月から医療療養病床を開始し、3 階西病棟 49 床でスタートしている。

全病床を医療療養病床として使用するには、大幅な改修をするように指導を受けたが、1,000 万円以上の費用が掛かるということが判明し、現在は改修をせず 33 床で運営している。

入院患者は現在 1 日平均 25~26 人である。当初 25 人で計画を立てていたの、順調に計画が遂行されている。

委員) 療養病棟を開始して、予想外なことや問題等はないか。

事務局) 看護師 10 名、看護助手 8 名、合計 18 名の職員を 3 交代制で配置している。夜勤は、厚生労働省の基準のとおり看護師 1 名、看護助手 1 名の 2 名体制で行っている。

当院の療養病床は医療依存度の高い患者様が多く入院されているので、マンパワーが不足している。また、診療報酬の基準により入院している患者様の週 2 回の入浴が義務付けられており、毎日のシャワー浴・清拭で時間と労力を要している。療養病棟の職員では手が足りないため、他部署職員の応援で対応している。

ある程度急性期で治療が終わり、更に継続入院が必要な医療依存度の低い患者様を配置すれば質の改善に繋がると思うが、医療ニーズが急性期と同じような治療を行いながら、少人数で日々の業務も行っているの、時間外も発生しているという状況である。

委員) 繰入金が高額化してきているが、どの程度まで繰入する範囲なのか、昨年と比較すると、大幅に増えており、平成 27 年度も同じような金額になるかは分からないが、今後も繰入金の増額は考えられるのか。

事務局) 繰入金の繰出基準があり、それに則って繰入をお願いしている。平成 27 年度までは特例債の元金及び利息が繰入金に含まれ、今年度は 6 億 2 千 7 百万円だが、平成 28 年度からは特例債の元金及び利息が減るので、4 億円台に減ると思う。

病院も経営努力はしていくが、更に経営が悪化するようであれば一般会計に繰入の増額をお願いする。地域医療構想がある程度固まれば、新公立病院経営改革プランを策定しなければならないので、また繰入金の話が出てくるかと思う。

委員) 色々と努力はされていると思うが、診療報酬に関して、同じようなレベルの病院と比較し金額的な違いはどの位か。また、禁煙外来も始めて色々と努力されているなど感じてはいるが、金額的なところでのお考えはあるか。

事務局) 患者1人当たりの収入は、昨年度の外来で1人当たり7,234円となっている。今年度は、1人当たり8,000円を超えており、多いときは8,300円になるなど、1人当たりの収入は増えている。入院についても、昨年度の平均3万円に対して、今年度は一般病床で3万2千円～3万4千円で、1人当たりの収入は増えている。

先生方も一生懸命やっており、外来の患者数は減っているが、診療収入は増えている。禁煙外来は今年の6月から始めて、計画的に診療し成果も上がっている。

委員) 病院は、患者さんと一緒に治療をしていくところだと思う。私も三戸中央病院へ通ったことがあるが、命令するような先生の言葉があった。患者さんはお客さんで、嫌になると違う病院へ行くという考えになる。接客の方も考えるともっともっと素晴らしい三戸中央病院になると思う。

事務局) 医師への苦情は若干入ってきている。指導医の医師へしっかりと指導をするよう再三伝えている。若い医師もいるので十分に指導していければと思っている。

委員提言) 入院については収益があがっているが、外来患者はかなり患者数が減っている。原因は医師不足だという話だが、一般会計予算の1割以上を病院へ注ぎ込んでいるので、一般会計の負担が増えないように企業努力をして欲しい。

また、計画を立てなければならぬというのであれば、見通しをしっかりと立てて欲しい。4億円も5億円も差が出る計画は計画ではないと思うので、よろしくお願ひしたい。

委員) 医療療養病床が半分しか稼働していないということだが、3年後の介護型療養病床廃止を見据えて看護師及び介護職を増やしフル稼働し、2階の使用していない病床を慢性期病床として使用できれば入院収入は増えると思う。急性期は幾らか増えるかもしれないが、これから増えるのは慢性期である。全体としての必要ベッド数は減るかもしれないが、慢性期病床についてはまだまだ増えると思うがいかがか。

事務局) 県の試算では、慢性期・回復期の病床を増やす方向となっており、病院としても回復期の病床を計画しており、早期に始めたいと思っている。

ただ、2025年を経過すると人口減少が始まることもあり、その際には増やした病床がどうなるのかという不安もある。将来的な人口減少が見えるときに施設を増やすのはどうかという意見もあり、狭間にいる状況である。今後を見据えながらでないといけないのではないかと考えている。

東山院長) 委員の皆様方には、ご多忙のところお集まりいただき、実り多い議論を頂きました。

今日の意見を踏まえ、職員一同経営を改善させるように努力して参りたいと思います。

今年1月から療養病床を開始し、最初は数が少なかったのですが、現在は20人を超える数を維持しております。どのような患者さんを療養病床に移したら収入に繋がるかを、常に考えながら毎週会議を開いております。残念ながら2階病棟の再開に向けて努力はしておりますが人員の確保に至っておりません。これからも努力して参りたいと思いますので、宜しくお願ひ致します。

本日はありがとうございました。